

アイヌ衣服文様布量について（第2報）

昭和女大附高 ○吉本智子 昭和女大 村井不二子

〔目的〕アイヌ衣服には、本州では見られない様々な独特の文様がある。その文様を構成している布、文様布は、アイヌの人達にとって、交易によってしか手に入らないものであったと言われる。その限られた布をいかに工夫して使用したかと言う点から、文様と文様布量の関連性、布の貴重性、衣服布と文様布のかかわりについて考察する。

〔方法〕実際に文様布に使われている布の量（文様布量）の計測を行い、衣服種類別文様布量、素材別文様布量、衣服布量に対する文様布量の割合を求める。またそれを逆に、計測された布量から、その文様を再現してみることににより、布の貴重性、文様と布量のかかわりについて考察を進める。

〔結果〕今回はアイヌ衣服の最も代表的なアツシ5点を対象に行った。アツシのほとんどは、布をテープ状にしたものを切り伏せしていく切伏文様である。素材的には、厚手の木綿布が使われているため、布テープだけでは細かい文様が表現しにくいためか、多くのステッチ文様が施されている。また、計測された布量から文様を再現した点においては、実際の布量とは多少の差異が見られた。これは布を曲げる時のいせこみの分量や、実際の布と試用布との布の厚さのわずかな差などが原因であると考えられる。しかし多少の差異が見られたものの文様布量は、視覚的文様領域（文様間の空間を含む文様全体の範囲）よりもだいぶ少ないものであった。布を細いテープ状にして用いることによって、少量の布でも衣服全体に文様を施すことができ、貴重な布を工夫して使っていたことがうかがえた。